

おりますほか、同橋わきの歩道橋の設置及びJＲ橋上流の護岸の改築工事を予定していると聞いております。

Q 過去に山武市松尾町田越地先の田越堰までの河川改修が行われています。田越堰上流も改修が必要と思うが、山武市の見解はどうか。

A 都市建設部長 田越堰上流は、補助整備事業により改修が概成されており、現在のところ新たな改修計画はございません。今後の降雨時の状況等を踏まえて、県と協議してまいりたいと考えております。

Q 新田越橋上流を、昨年度が調査したとのことだが、その結果はどうか。

A 都市建設部長 改修の年度が古いこともあり、一部に老朽化が見られるが、大規模な破堤には至らないと判断されていると聞いております。市としては、今後、河川の浚渫や堤防の維持管理など、治水上の問題箇所が確認された場合には、問題の解消に向けて県に働きかけてまいります。

Q ●市有バスの活用について
山武市所有の4台のバスの現在の利用・運行状況



市有バス

況はどのようになっていくのか。

A 総務部長 運行管理は業務委託をしており、4台の市有バスの延べ運行台数は、平成19年度は676台、平成20年度が709台という状況になっております。

Q そのうち、小学校、中学校など学校関係におけるバスの利用状況はどうか。

A 総務部長 平成19年度は、延べ台数が401台、全体の運行台数のうち59・3%を占めております。平成20年度は、延べ台数が513台、全体の運行台数の72・4%を占めている状況です。

Q 市有バスの利用状況を、行政の部所で分けた場合の各部所の割合はどうか。

A 総務部長 市有バスの利用状況は表のとおりです。

市有バス部署別利用状況

部署	19年度	20年度
教育部	478台(70.7%)	593台(83.6%)
保健福祉部	129台(19.1%)	52台(7.3%)
経済環境部	34台(5.0%)	31台(4.4%)
その他	35台(5.2%)	33台(4.7%)

Q 市有バスの今後の活用方向についてお伺いいたします。

A 総務部長 現在4台のバスを保有していますがそれぞれのバスの更新の時期が来た場合は、更新、入れかえ等を行わないでいこうかと現在考えています。

今後、市有バスのあり方について、どれだけ台数を運行していくかという問題もあるでしょうし、運行の多くは教育部関係で利用されているといった実態もふまえ、有効、効率的に利用を図られる部署、

教育部とすれば、教育部というようなことで調整を進めることも考えております。

●教育問題について

Q 山武市内の小学校及び中学校の児童・生徒の人数で、一番少ない学校と一番多い学校の人数・比率はどうか。

A 教育部長 小学校13校中、児童数が一番少ないのは、豊岡小学校で90人です。一番多いのは、成東小学校で355人です。比率は2対8となります。

中学校では、6校中、生徒数が一番少ないのは連沼中学校で135人、一番多いのは、成東中学校で458人です。比率は2対8に近い、2.3対7.7となります。

Q 教育の場において、児童・生徒の人数や規模などの違いから、どのような格差や問題が生じているのか。

A 教育部長 教育委員会としまして、児童・生徒数で格差が生じていると考えていません。例えば、教員1人当たりの児童数は、豊岡小7.5人、成東小は16・1人となっております。少人数の学校のほうが、児童1人に対してきめ細やかな教育が実施されている

とも言え特徴の一つとっております。

ただ、今回の質問の趣旨が校外研修に伴う児童1人当たりのバスの借り上げ費用ということでしたら、児童数の少ない学校のほうが、負担は大きくなるのは事実です。

Q 現在バスの借り上げ費用の格差の是正をどのように図っているのか。

A 教育部長 小規模校のバス借り上げ料はデメリットですが、合併前は、各町村1台のバスでした。小規模校は使っても、大規模校では1台のバスでは乗り切れないケースも考えられ、町村合併により、かなりの部分が解決したと考えております。

Q 総務部の答弁で、今後市有バスは更新しないという方向を、教育部ではどのようにとらえているのか。

A 教育部長 日常の教育活動に大変効果的に活用させていたいただいており、学校現場では大変喜ばれています。市有バスが引き続き利用可能になるよう、学校からも強い要望があり、ぜひ現状に近い状態を維持したいと教育委員会では考えております。